

協会だより

目次

ご挨拶 …………… p.2



各理事の活動

副会長・代表事務局/会計 …………… p.3

研修/広報 …………… p.4



各ブロックの活動

東毛ブロック …………… p.5

西毛ブロック …………… p.6

北毛ブロック …………… p.7

中毛ブロック …………… p.8

／編集後記

発行日 平成 22 年 4 月 1 日

編集・発行 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

〒377-0541

群馬県吾妻郡中之条町大字上沢原 2130

(沢渡温泉病院 医療福祉相談室内)

TEL 0279-66-2121

FAX 0279-66-2800

URL <http://www.asahi-net.or.jp/~ve9kcrkk/>

デザイン 群馬県立女子大学 デザインゼミ

新海 涼子 (群馬県立女子大学デザインゼミ OG)

2010

ご挨拶

群馬県医療ソーシャルワーカー協会 会長 宇野 浩文

昨年の春に、当協会の対外的な広報誌を創刊し、この度、こうして第2号を発行できますこと、大変嬉しく思っています。これも偏に、この1年間の皆様方のご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。

さて、この春には2年に一度の診療報酬改定があります。その中で「介護支援連携指導料」というものが新設される予定です。これは、在宅復帰後を見越した地域連携の評価を具体化したものの一つです。

「退院後に介護サービスの導入や変更が見込まれる患者に対し、見込みがついた段階から、入院中の医療機関の医師、または医師の指示を受けた看護師等がケアマネジャーと共同で、患者に対し、介護サービスの必要性等について指導を行うと共に、退院後の介護サービスに係る必要な情報共有を行った場合の評価を新設する」《厚生労働省 中央社会保険医療協議会 総一122.12 資料【平成22年度診療報酬改定における主要改訂項目について（案）】より》とあります。

さらに、算定要件の中に、「入院中の医療機関の医師または医師の指示を受けた看護師・薬剤師・理学療法士、社会福祉士等が、入院中の患者の同意を得て、居宅介護支援事業者等の介護支援専門員と退院後に利用可能な介護サービス等について共同して指導を行った場合に、入院中2回に限り算定する」とあります。

このケアマネジャー（介護支援専門員）との連携は、現在も私たちソーシャルワーカーが日常的に実践している大切な業務の一つですが、当初、算定要件の中に、「社会福祉士（ソーシャルワーカー）」は明記されていませんでした。

しかしその後、「社会福祉士」が明記されました（恐らく関係団体による働きかけの成果でもあったと思います。微力ながら当協会もそれに協力しました）。業務独占というわけにはいきませんが、これは大変喜ばしいことであり、大きな進展であると思います。

今も昔も、私たちにとりましては各関係機関との連携は重要な業務です。医療機関において、その点を十二分に認識している職種は、ソーシャルワーカーが一番であると自負していますし、また長い間それを実践してきました。入院患者が退院後も安心して地域で生活できるよう、切れ目のない医療サービスや介護サービスの連携に努めてきたつもりです。それが今回の改訂で、やっと評価されることになったのです。

今や医療機関の中だけで様々な問題を解決することは困難な状況です。故に、地域と共に、そして、そこで働く多くの専門職の方々との連携をとることは必要不可欠なことと考えています。

ソーシャルワーカーとして、より良い地域社会づくりに、今後も尽力していきたいと思っています。どうぞ引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。



副会長・代表事務局

副会長兼代表事務局 中井 正江 (前橋赤十字病院)

当協会の副会長と事務局を兼務しています。協会を代表して、県の「医療安全推進協議会」、「女性に対する暴力被害者支援機関ネットワーク会議」、「子ども虐待防止多職種推進委員会」などの会議に参加し、ソーシャルワーカーの立場から各々の課題について検討しています。

また、会の窓口としての問い合わせ、会員管理なども行っています。

病院にソーシャルワーカーが置かれてから半世紀が経ちましたが、まだまだ各病院には少数

しか配置されていない状況です。ソーシャルワーカーが経営的な側面だけでなく、患者さんや家族の権利擁護のためにも、配置されていくことが必要だと考えています。

そのためにも、職能団体として、当協会がもっと力をつけていくことも必要であると考えております。

関係機関の方々には、日頃より大変お世話になっておりますが、今後ともどうぞお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会 計



担当理事 大川 友子 (群馬大学医学部付属病院)
竹内 勇治 (前橋市地域包括支援センター)

会計担当の業務をご紹介致します。

当協会では、正会員と賛助会員がおり、それぞれより右記の会費をいただいています。納入された会費は、当協会の運営に必要なすべての活動の経費として利用されています。

会計担当の業務は、各会員の会費納入状況の把握と会費未納者への呼びかけ、協会の諸活動の経費の支払い、決算報告、予算案(原案)作成、協会名義の各種口座の通帳の管理、公印の管理、等があります。

また、協会設立50周年に向け、記念事業費用を毎年積み立てています。

年会費 正会員：5,000円
賛助会員：10,000円

協会の主な経費には、下記の項目があります。

- ① 研修費用
新人研修、生涯学習講座、全体研修、グループサポート事業
- ② 各ブロック活動費用
- ③ 広報費用
広報誌発行、ホームページ運営管理
- ④ 渉外費用
当協会が加入している諸団体の会費等
- ⑤ 他団体研修参加費・
社会福祉士受験費用等の補助費



広 報

小淵 匡（独立行政法人国立病院機構 沼田病院）

諸星 智美（中央群馬脳神経外科病院）

清水 恭子（高崎中央病院）

小林 一幸（角田病院）



広報担当では、私たちの活動をより広く理解していただくため、右記の業務を行っています。

- 協会ホームページの運営・管理
※現在リニューアル準備中です
- 協会だよりの発行（年1回発行）
- 協会員向け協会内だよりの発行（毎月発行）



研 修

研修担当理事 堀口 哲也（慶友整形外科病院）

齋藤 一夫（館林厚生病院）

篠原 純史（独立行政法人国立病院機構

小池 由美（群馬県立がんセンター）

高崎総合医療センター）

竹内 勇治（前橋市地域包括支援センター）

■ 新人研修

参加対象者を経験年数2年未満とし、今年度はより多くの

新人が研修を受けられるよう、定員を決めずに参加者を募りました。グループにて講義・ロールプレイ・ディスカッションを行っています。また、講義ごとにレポートを提出し、講師からコメントをいただく形式です。今年度は6~2月まで、全8回で行われます。『保健医療ソーシャルワーク原論』（相川書房）をベースに、ソーシャルワークの価値や倫理に重点を置いています。

研修を重ねるごとに緊張も徐々に和らぎ、後半は活発なディスカッションが行われています。

■ 生涯学習

会員の資質向上と、多様化する現代社会の状況を学ぶことを

目的としています。今年度は、講師に海野 敏先生（東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科教授）をお招きし、「インターネットが変えた人間関係～ネットいじめとケータイ・コミュニケーション～」という題で講義を行っていただきました。

■ 全体研修

医療ソーシャルワーカーに必要な実践理論を本研修の講義

で学ぶと共に、協会員自らが、日頃の実践において行った援助の事例発表を通し、発表者はもちろんのこと、研修に参加する発表者以外の協会員も主体的に学び、医療ソーシャルワーカーとしての資質向上を目指すことを目的としています。

今年度は参加者よりいただいたアンケートをもとに、「医療ソーシャルワーク実践理論（仮）」というテーマで行う予定で準備しております。

■ グループ活動サポート事業

会員による自主的な「グループ活動」を支援し、クライアントを支援する環境の醸成と、保健医療分野のソーシャルワーカーの資質向上に寄与することを目的としています。今年度は三つの事業が立ち上がり、研修を行っています。

■ 講師バンク

会員の中から講師を募り、研修に役立てています。



東毛ブロック

ブロック長 関口 裕之 (原病院)
 ブロック事務局 (東) 堀口 哲也 (慶友整形外科病院)
 ブロック事務局 (西) 安藤 由美子 (桐生厚生総合病院)



第1回 東毛ブロック会 平成 21 年 7 月 31 日 (金) 銘仙の家

平成 21 年度のブロック会について話し合いました。前年度は、事例検討会を主に行いましたが、今年度については、いろいろな取り組みを行っていきたいと考えました。

会員からは、事例検討、講演会、施設見学、関係機関との交流等、さまざまな意見が出されました。多くの意見交換がなされ、充実した会になりました。



第3回 東毛ブロック会 平成 21 年 12 月 11 日 (金) 群馬県立がんセンター

小規模多機能施設の代表者の方々をお招きし、小規模多機能施設がどのようなものなのかをご説明いただき、医療機関や他施設との連携を深めました。

医療機関や他施設において、小規模多機能施設とどのような連携がとれるかが大きな課題です。このような交流会が開催できたことにより、よりよい連携関係を築いていければと考えます。



第2回 東毛ブロック会 平成 21 年 9 月 25 日 (金) 銘仙の家

精神科病院にて使っている制度について、知識の向上を図りました。

精神科病院では、自立支援医療、福祉医療(精神)、精神障害者保険福祉手帳等の制度があります。このような制度は、関係機関でしか利用することがないため、さまざまな関係機関が集まった中で学び合うことができ、より幅広い知識向上へとつながりました。

平成 21 年度の東毛ブロック会の活動においては、知識向上と関係機関との連携について学ぶことができました。これからも知識向上、関係機関の連携、また困難事例検討も行っていきたいと考えております。そして、ブロック会の活動が、日々のソーシャルワーク業務の技術向上につながっていければと期待しています。

さまざまな関係機関がブロック会に参加していただき、ありがとうございました。



西毛ブロック

ブロック長 近藤 万紀子 (第一病院)
 ブロック事務局 清水 恭子 (高崎中央病院)

西毛ブロックでは、ブロック会を研修・定例会と事例検討会に分けて開催し、年間7回程度の活動をしています。

まず研修・定例会では、会員の皆さんが日々の業務の中で興味を持っているテーマで、年間5回程度開催しています。

もちろん他ブロックの皆さんも興味のあるブロック会に参加していただいています。

また、事例検討会について、平成21年度は2回(8月・11月)開催しました。

困難事例等について経験年数の浅いMSWと、ベテランMSWと一緒に検討することで、幅広い視点での情報収集、アセスメント、プランニングのプロセスを学ぶ機会となっています。

今後も、現場に即した内容での活動ができればと考えています。

■ 平成21年度 ■ 研修・定例会

第1回 4月

「アルコール・薬物依存症について学ぶ」

赤城高原ホスピタルにて院内見学をさせていただいた後、院内PSWより講義をしていただきました。

第2回 6月

「高齢者専用賃貸住宅について」

実際に高齢者専用賃貸住宅の方をお招きし、お話をうかがいました。

第3回 9月

「退院調整加算」

医療法人社団千栄会 昭和病院にて、院内MSWより「退院調整加算」について講義をしていただき、各病院での現状について意見交換を行いました。



参加者が聞き入る講義風景

第4回 12月

「児童虐待の現状と課題～医療との連携を図る～」

西部児童相談所虐待専門官の方をお招きし、講義をしていただきました。

第5回 2月

高齢者虐待についての研修を行いました。



北毛ブロック

ブロック長／文責 伊藤 裕二（渋川総合病院）
 ブロック事務局 小林 紀子（ほたか病院）

北毛ブロックは、渋川市・北群馬郡・沼田市・利根郡・吾妻郡の地域内の機関（病院、老人保健施設、居宅サービス事業所、社会福祉協議会、療養所等）に勤務するソーシャルワーカー等で構成されています（20施設 33名：平成21年5月現在）。

北毛地区内の会員が所属する機関や関連施設での研修会（施設見学、事例検討、勉強会等）を行っています。

平成21年度は、下記の内容で4回の研修会

を開催いたしました。

現在はまだ、ブロックとしての研究や、社会活動などへの取り組みは始めておりませんし、地域的に遠方から参加の会員もいるため、1回毎の参加人数は決して多くはありません。しかし、今後も「何でも知っていて損はない」ということで、引き続き幅広く知識を深めていけるよう、研修会等を企画していくと共に、北毛ブロックならではの研究、活動に取り組んでいきたいと考えております。

平成 21 年度 研修会報告



1. 新設の特別養護老人ホームで、介護と医療で地域に貢献するための新しい特養の視点と、高齢者が食べやすく、見た目にも食欲を増進させる「ソフト食」についてのお話をうかがいました。

2. 緩和ケア病棟・重度心身障害児（者）病棟について、県内でも数少ない緩和ケア病棟と障害児（者）の医療について、諸問題点等の講義を行いました。

3. 地域医療・療養病棟について、山岡部でのへき地医療の地域貢献の問題点等を学びました。2と3は、地理的な面も含め、北毛地区の特色ある研修会だったと思います。

4. 当ブロックでは昨年度からの試みである、専門業者による介護用品・福祉機器のセミナーを行いました。めまぐるしく変化する在宅介護の制度や福祉機器の状況について、専門業者の視点からお話を聴くことができました。



中毛ブロック

ブロック長 平井 愛子 (わかば病院)
 ブロック事務局 望月 裕子 (済生会前橋病院)

中毛ブロックでは今年度、例年までの活動とは趣を一変しました。ソーシャルワーカーの原点に立ち戻り、「私たちにできること」、「私たちがしなくてはならないこと」、「問題を見逃さず「気づく」ことができること」を話し合い、群馬県内で起こった悲劇的な事故を念頭に置きながら、さまざまな問題がある高齢者介護について、ソーシャルアクションを起こそうと活動を始めました。

ブロックでの話し合いの中から、「高齢者介護の課題～介護を必要とする方の生活する場に関して～」とテーマを決め、まず始めに前橋協立病院の村岡氏を講師に迎え、ソーシャルアクションについての具体的な実例を中心とした講義を受けました。

その後、高齢者介護の課題について、グループワークを行って問題点を絞り込み、各ワーキ

ンググループ単位で「施設の課題」、「経済的問題を抱えた人・保証人がいない人などに関する課題」、「在宅介護の課題」、「社会保障費削減など国の動向について」をテーマとして調査・検討を行っています。最終的にはブロックとしてまとめあげ、ソーシャルアクションへとつなげていきたいと考えています。

現在もグループ同士の連携を密にし、中毛ブロック全体として最終的にまとめていけるように、軌道修正をしながら活動しています。

今年1年は、新たな試みに対して手探りで取り組んでいる状況で、まだ形とはなっていませんが、ソーシャルワーカーとしてできることを、病院や施設の枠にとらわれずに取り組んでいけることは意義深いと考えています。



編集後記

皆様のご協力をいただきまして、本号を発行することができました。心より感謝いたします。今回は創刊ということもあり、組織についての紹介等ありましたが、今回は各理事の活動・ブロックの活動を掲載させていただきました。皆様に当協会の活動について、知っていただければ幸いです。

中央群馬脳神経外科病院 諸星 智美

今回、会員の皆様、関係機関の皆様のご協力を得て無事に第2号の協会だよりの発行ができましたこと厚く御礼申し上げます。群馬県医療ソーシャルワーカー協会の活動がより一層身近なものとして感じられる広報誌を目指していきたいと考えております。今度ともご支援、ご協力をお願いいたします。

高崎中央病院 清水 恭子

この度、第2号となります協会だよりを作成しました。今年は診療報酬の改定で、いくつかの項目に「社会福祉士」が明記されました。点数化されたことが良かったのか、悪かったのかは判断できませんが、「ソーシャルウェルビーイング」を目指してがんばっていききたいと思っております。

この広報誌を通して医療ソーシャルワーカーを少しでも皆さまにご理解いただき、また群馬県医療ソーシャルワーカー協会を知っていただけたら幸いです。

独立行政法人 国立病院機構 沼田病院 小淵 匡

この協会だよりも今回で第2号の発行となります。今回は各理事及びブロック活動について載せました。私たちの活動を広く、多くの方に知っていただければ幸いです。今回につきましても、群馬県立女子大学デザインゼミ高橋綾准教授はじめ皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げます。

角田病院 小林 一幸